

ドとしてはD-U-N-S<sup>®</sup>（米国D&B社が開発した企業コード）が知られている。企業内で調達品データベースやサプライヤーデータベースを構築する際に、これらグローバルコードを付与しておくことで、自社の調達品に対応した代替品や代替サプライヤーの検索・分析のスピードを大幅に向上させることができる。

## 8 調達領域における今後の情報システム関連事項

日進月歩の情報システム領域では、調達領域において、業務の効率化、精度向上、スピードアップなどの効果を生み出す新しいツールが登場してきている。以下にその中の代表的なものを紹介する。

### ■ 8-1 AI（人工知能、Artificial Intelligence）

人間の知能に相当する能力をコンピュータ上で実現する、技術、ソフトウェアあるいはコンピュータシステムのことである。

利用される分野は多岐にわたる。代表的な例として、画像データを分析して特定のパターンを抽出する画像認識や専門家の思考プロセスを模倣して推論や判断をするエキスパートシステムがある。

調達関連領域での活用候補としては、次項のRPAで活用して事務作業の自動化を進めたり、仕様情報やサプライヤーの財務状況、価格やコストの分析などにも応用したりできると言われている。

### ■ 8-2 RPA(ロボティック・プロセス・オートメーション,Robotic Process Automation)

RPAとは、人間にしかできないと考えられていた事務作業を、ロボット技術により自動化・効率化する取り組みである。ここで言うロボット技術のロボットとは、ルールエンジンや認知技術を活用して作業を代行するパソコンやサーバ上にあるソフトウェア型ロボットのことである。

調達関連領域での活用例としては、大量の低価格物品の調達業務を自動化した海外企業の取り組みがある。

### ■ 8-3 ブロックチェーン

ブロックチェーンとは、分散型台帳技術、あるいは、分散型ネットワークのことである。もともと、仮想通貨の中核技術であり、セキュリティと可視性が高く、低コストで効率がよいと言われている。

現在は、この技術をサプライチェーン領域に適用して、トレーサビリティに應用する

ことが試みられている。

調達関連領域では、輸入において、荷主、通関業者、税関などの貿易関係者間で機密性を行うことなく貿易手続きのプロセスを遂行し、情報交換することができるようになることが期待されている。